

## 鶏の人工授精技術

畜産試験場

当场では、「信州黄金シャモ®」など地鶏のヒナを生産して農家へ配布しています。安定したヒナ生産のためには受精卵を確保することが重要であり、人工授精が欠かせません。現在、家畜の人工授精技術は畜産関係者でなくてもご存知だと思いますが、鶏の人工授精はあまり知られていないと思いますので紹介します。

鶏は、糞・尿・精液・卵が全て「総排泄腔」から排出、射精または産卵されます。そのため、精液の採取は糞が混入しないように注意しながら、総排泄腔の部分をつまんで交尾器官を突出させて行います。また、雌への精液の注入は、鶏の下腹部を内側に圧迫して総排泄腔から卵管を反転突出させて確実に実施します。

雌鶏は、卵管内に受精能力を保持した精子を貯留できるため、1回の精液注入で1週間程度は安定して受精卵を産卵します。受精卵は10～16℃程度で保存すると、発生を開始せずに3週間程度生存し、38℃に温めると発生を開始しますので、当场では、3週間分の卵をまとめて孵卵器に入卵してふ化させています。

今後も人工授精の実施により、安定したヒナ生産を継続するとともに、発生が拡大している鳥インフルエンザの防疫に努めて参ります。



交尾器官を突出させて精液を採取



卵管を反転させて精液を注入

担当者	保科 和夫	電話番号	0263-52-1188
-----	-------	------	--------------

[試験場ニュースへ](#)